

1. 件名：原子力エネルギー協議会との面談
2. 日時：令和5年12月7日（木）16：00～18：45
3. 場所：原子力規制庁9階会議室
4. 出席者：

原子力規制庁

技術基盤グループ

技術基盤課

佐々木企画調整官、酒井原子力規制専門職、皆川原子力規制専門職、藤澤技術参与（テレビ会議システムによる出席）、戸田係員

システム安全研究部門

小嶋統括技術研究調査官、田口主任技術研究調査官、北條主任技術研究調査官、渡辺技術研究調査官、船田技術参与（テレビ会議システムによる出席）

検査グループ

検査監督総括課

村上課長補佐

実用炉監視部門

菊川管理官補佐

専門検査部門

今瀬主任原子力専門検査官

原子力エネルギー協議会（ATENA） 理事 他8名

北海道電力株式会社 原子力事業統括部 原子力設備グループ 担当

東京電力HD株式会社 原子力設備管理部 設備技術グループ マネージャ 他2名

関西電力株式会社 原子力事業本部 保全計画グループ マネージャ 他4名

九州電力株式会社 原子力発電本部 原子力経年対策グループ 副長 他1名

日本原子力発電株式会社 発電管理室 設備管理グループ 課長 他1名

株式会社日立製作所 原子力制御システム設計部 主任技師 他3名

東芝エネルギーシステムズ株式会社 原子力電気システム設計部 参事 他1名

三菱電機株式会社 電力・産業システム技術部 技術企画G 専任 他1名

5. 要旨：

<技術評価を希望する学協会規格>

- 民間規格の技術評価の実施に係る令和4～6年度の計画については、令和4年10月12日の原子力規制委員会において了承された。
- この計画に対し、ATENAから第22回新規制要件に関する事業者意見の聴取に係る会合（令和5年8月22日）において、2024年度までの技術評価計画に追加で提案する規格として、2023年度に発刊予定の以下の規格の技術評価を希望する旨説明を受けた。
 - ① 原子炉構造材の監視試験方法（JEAC4201-2007（2023年追補版））

② 原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認試験方法 (JEAC4206-2007 (2023 年追補版))

- 上記①、②の規格と、令和 4～6 年度の計画の規格との間の優先順位について、資料 1 に基づき説明を受けた。
- 原子力規制庁から、ATENA に対し、技術評価において学協会をどのように支援するのかについて検討するよう要請した。
- ATENA から対応する旨の発言があった。

<米国ロビンソン原発 2 号機の炉心そこの割れ>

- ATENA から資料 2-1 及び 2-2 に基づいて説明を受けた。
- 原子力規制庁から、資料 2-1 については、非公開としている 2 ページについて、できるだけ開示できないか検討し、再度提出するよう依頼した。
- ATENA から対応する旨の発言があった。

<デジタル安全保護系と計測制御系の分離>

- 令和 5 年 11 月 9 日に、原子力規制庁から ATENA に対し、以下について調査し、回答するよう依頼していた。
 - ①安全保護系と計測制御系との電氣的分離におけるアイソレーションデバイスの設置状況
 - ②柏崎刈羽原子力発電所第 7 号機 MS I V 出力回路における F P G A 使用状況
- 上記①について、ATENA から資料 3-1 に基づいて説明を受けた。
- 原子力規制庁から、柏崎刈羽原子力発電所第 7 号機の施工会社については設置場所の調査を、それ以外については、どのような考え方で施工しているのかについて調査し、まとまったら報告するよう依頼した。
- ATENA から、対応する旨の発言があった。
- 上記②について、ATENA から資料 3-2 に基づいて説明を受けた。
- 原子力規制庁より、FPGA の動作検証をどのように行ったのか、用いられている FPGA の種類等について調査し、報告するよう依頼した。
- ATENA から対応する旨の発言があった。

6. 配布資料 :

- 資料 1 技術評価を希望する学協会規格
- 資料 2-1 炉心そこの全周破断時の制御棒挿入性の担保について
- 資料 2-2 炉心槽割れ事象対応に係るスケジュール (案)
- 資料 3-1 安全保護系と計測制御系との電氣的分離におけるアイソレーションデバイスの設置状況について
- 資料 3-2 柏崎刈羽原子力発電所第 7 号機 MS I V 出力回路における F P G A 使用